

2011年8月4日 更新

平成23年度

優良木造施設コンクールで亀山市立関中学校が「農林水産大臣賞」を受賞

7月26日(金) 東京都江東区新木場 木材会館7階ホールにおいて、木造利用推進中央協議会 主催、農林水産省 後援のもと、平成23年度 優良木造施設コンクールの表彰式が行われました。

このコンクールは、各都道府県の木材利用推進協議会が推薦した施設の中から選定の上、①木材利用分野の拡大、②地域材の有効活用、③低位利用木材の有効活用、④木材利用推進に資する新規性を審査し総合判定の結果表彰されるもので、その結果、「亀山市立関中学校(学校施設)」が最も優秀な賞である「農林水産大臣賞」を受賞しました。

尚、この賞は施主、設計者、施工者が連名で受賞しました。



■農林水産大臣賞(1点)

◆概要

亀山市立関中学校(学校施設)

施主:三重県亀山市

設計者:㈱石本建築事務所

施工者:堀田建設株式会社

木造2階建一部鉄骨造

延床面積: 2,628.99 m²

主要樹種: 県産スギ、国産カラマツ

主要構造部材:スギ(柱材)134 m³、カラマツ(梁材)294 m³(その他、床材:スギ圧縮材、内外装:スギ羽目板、スギ丸太(樹齢100年超8本)外 合計 652 m³)



■平成23年度優良木造施設表彰施設の概要

亀山市立関中学校は豊かな自然に囲まれ、旧東海道で唯一重要伝統的建造物群保存地区に指定された関宿の町並みに近接している。

改築校舎は、木造の教室棟と管理棟の2棟である。「まちづくりと調和のとれた学校施設」、「学習活動の多様な展開、弾力的な学習集団に対応した環境整備」、「木のぬくもりを感じる校舎」の基本コンセプトで建築されている。

2棟施設の間は、地域の歴史を活かして緩やかに曲った中庭空間が「街道」に模して配置され、この中庭を取り囲む形で、各学年の学習スペースや多目的ホール、メディアセンターなど“生徒”の活動空間を配し、各学年の学習形態の展開や街を象徴する「町並み」を通じて異学年の生徒同士の活発な交流が可能となっている。

様々な学習校舎の柱には、地場産のスギ丸太や県産材のスギ集成材を140m³、梁には国産カラマツ集成材を300m³使用し、また、床の圧縮材、壁の羽目板、天井ルーバー、渡り廊下軒天にもスギを多用している。特に、地域でいつまでも語り継がれるよう、多目的ホールの吹抜には樹齢百年を超える直径約50cm、高さ7~9mの8本の地場産の丸太が原木に近い形で使用されており、まさに木のぬくもりが感じられる校舎となっている。この改築により以前にも増して、生徒の行動には落ち着きが見られるようになり、日常からものを大切にする気持ちが育まれている。

上記概要は平成23年度優良木造施設の表彰(木材利用推進中央協議会)資料より



多目的ホール



普通教室



メディアセンター



ワークスペース